

1 2013年5月、米上院調査委
2 員会はアップル社の最高経営
3 責任者を呼んで、同社の課税忌
4 避に関する公聴会を開催した。
5 同社は、オランダ、アイルラン
6 ド、英領バージン諸島などタッ
7 クスヘイブン（租税回避地）の
8 税制を巧妙に利用して、毎年莫
9 大な利益を上げながらいずれ
10 の国に対してもほとんど税金
11 を納めていなかった。

12 アップル社だけではなく、い
13 までは、世界中の多国籍企業、
14 金融機関、巨額の金融資産を保
15 有する富裕層が同様のやり方
16 で課税を逃れており、日本の大
17 企業や銀行も例外ではない。

18 タックスヘイブンを通じて
19 運用される資金は、2010年の
20 調査で21～32兆ドル（約2000
21 ～3000兆円）に上り、世界の
22 銀行の対外融資の約半分がタ
23 ックスヘイブンを経由してい
24 る。これらの莫大で不透明な金
25 融取引は、関係国の課税制度を
26 形骸化させ、民主主義と社会正
27 義を掘り崩している。国連、
28 OECD、G7などが改善策を20
29 年近く議論しているが、実効あ
30 る対策は講じられていない。

31 タックスヘイブンの弊害は
32 単に税収減だけではない。繰り
33 返す金融危機、テロや密輸など
34 国際犯罪、財政危機、政治腐敗、
35 格差や貧困他、現代資本主義の
36 深刻な病理で、タックスヘイブ

37 ンと無縁な問題は一つも無い。
38 現代資本主義の屋台骨は、タッ
39 クスヘイブンが引き起こす「悪
40 しき税競争」によって、深く蝕
41 まれているのである。
42 本書は、最新の関連資料を丹
43 念に参照し、平易かつ行き届い
44 た説明でタックスヘイブンの
45 隠された実態と恐るべき弊害
46 を活写した会心の労作である。
47 著者によれば、21世紀の民主
48 主義は、タックスヘイブンを利
49 用し、擁護する勢力と、これに
50 反対する勢力との戦い如何に
51 掛かっているのである。